

令和3年度 学生による地域活性化プログラム

広田秀樹ゼミナール

取組 1

グラスルーツグローバル化ゼミナール —草の根・地域からの人類一体化の推進—

私たちは、現在進行している人類一体化の歴史的潮流であるグローバル化を、草の根・地域レベルから推進し、人類共生に貢献します。

具体的には、世界から私たちの地域に来てくださった外国の方と積極的に交流し、その方の母国の歴史、文化、社会などについて、最大限の敬意をもって学び、世界的視野を広げます。そして、その地域国際交流で得た世界的スケールの知識・情報を、地域の方に伝える国際理解教育を推進します。



【参加学生】 20名(3年生8名、4年生12名)

4年生 尾木和磨、王懿倫、佐野広樹、鈴木清和、武石大夢
中野琉星、丸山壮史、皆川春輝、Tran Phuong Thao
张贝琪、李思萌、華夏
3年生 于有為、夏鏡顏、黄舟、张娜、张苗苗、于涵
郭浩、侯建業

【アドバイザー】

green philosophy (グリーン・フィロソフィー) 代表 大出恭子 氏
フェアトレードショップ・ら・なぶう オーナー 若井由佳子 氏

鯉江康正ゼミナール

取組 2

コロナ禍における「まちの駅」の 新たな交流・連携のあり方を考える

本ゼミでは、まちの駅をフィールドとした調査・研究を平成19年度から行っている。これまでは、県内にある約130の「まちの駅」の紹介パネル作成、長岡・見附地域のまちの駅関連イベントのお手伝い、まちの駅交流会の企画・実施・参加、まちの駅全国大会への参加など多くの活動をしてきた。

しかしながら、昨年度(令和2年度)以降は新型コロナウイルスの影響で多くの活動ができにくくなっている。そこで、本年度はテーマにあるように、あらたな交流・連携のあり方を模索すべく、長岡・見附・県外のまちの駅ネットワークを対象にアンケート調査を実施し、コロナ禍における活動のあり方を検討する。併せて、安全性を確保したうえで、パネルの作成やイベントには協力していく。

【参加学生】 15名(3年生10名、4年生5名)

4年生 赤塚倫子、木下歩美、坂元明日香、李智超
Nyamaa Baljinnyam
3年生 内山葵、尾身萌々花、小林桃香、柴野奏人、高島元輝
長原史拓、星美紀、山井良海、吉田和弥、Ochirpurev Ariunjargal



【アドバイザー】

まちの駅ネットワークみつけ 代表 久住幸靖 氏
NPO法人市民協働ネットワーク長岡コーディネーター 太田道子 氏

令和3年度 学生による地域活性化プログラム

石川英樹ゼミナール

取組 3・4

栃尾地区活性化に向けたP R事業、にぎわい創出事業

栃尾地区のPRにつながる取り組みを進める。昨年度の栃尾フォトコン2020で応募いただいた写真を活用したフォトラリーなどの新たなイベントを開催し、域外から人々を呼び込むとともに写真の活用等により、栃尾地区の域外へのPRを目指す。

栃尾地区のにぎわい創出につながる取り組みを進める。昨年度の活動で整備された雁木通りの古民家再生ギャラリーを活用して、長岡の錦鯉によるアクアリウムを開催して中心市街地でのにぎわい創出とともに長岡錦鯉養殖産業のPRを目指す。アクアリウムでは存続が危ぶまれている杜々の森名水公園などの緑をPRするイベントを試みる。

昨年度に引き続き、栃尾高校との協働も進めたい。



【参加学生】 18名（3年生8名、4年生10名）

4年生 阿部紘輝、王浩田、金子響、小泉日和、小林真由香、竹内葵、永田藍美、松永優芽、山本紘也、米山和成

3年生 磯部直樹、今井諒、上村月乃、鈴木颯太、野澤侑我、星野宇宙、諸橋涼、山本まりあ

【アドバイザー】

オオタケコウスケ デザイン事務所オフィス 代表 大竹幸輔 氏
長岡市栃尾支所地域振興課 地域おこし協力隊員 加治聖哉 氏

権 五景ゼミナール

取組 5

十分杯を世界に知らせよう！

長岡の文化遺産であると同時に、変わった形の杯である「十分杯」を活用し、長岡を代表する観光資源の一つにすることを目標としている。ところが、まだまだ市民の認知度が低いという難題がある。そのため、これまでは市内での広報活動に力を入れてきたが、動画サイトが急速に利用されている現状を前向きにとらえ、これからは十分杯に関する動画制作を行うことで十分杯と長岡を世界中に知らせたい。



【参加学生】 5名（3年生4名、4年生1名）

4年生 阿部滉平

3年生 青柳玲央、榎本一斗、長部康平、高橋帝那

【アドバイザー】

株式会社長谷川陶器 社長 長谷川真 氏

魚沼市役所 防災安全課 主事 中澤司 氏

令和3年度 学生による地域活性化プログラム

栗井英大ゼミナール

取組 6

オープンファクトリーで 長岡を活性化！

長岡市の工業は、東山油田の開発に伴う石油掘削機械の製造・修理等を機に発展したとされる。第二次世界大戦後、それらの企業は、工作機械・鋳造業等に変貌を遂げ、また、工作機械製造を支える、めっき・表面処理、鍛造業といった企業も集積、発展し、今日に至っている。すなわち、機械・金属関連産業は、長岡の地域資源と言えるだろう。

一方、地域の人々の中には、その事実を知らない人も多い。そこで、普段は閉ざされている工場、すなわちモノづくりの現場を社外の人々に公開する取り組み「オープンファクトリー」の開催によって、機械・金属関連産業の「見える化」を図る。それにより、地域内の人々に広める、あるいは、再認識してもらうことを目指す。

【参加学生】 13名（3年生13名）

3年生 石井優人、石山歩、梅澤駆、熊谷海斗、小海りこ、小林拓海、齋藤綾太、笹川彩花、高野可南太、田沢圭祐、永井滉大、長谷川響、馬場竜一



【アドバイザー】

株式会社アルモ 代表取締役社長 柴木樹 氏
長岡市 商工部 産業支援課 工業振興担当課長補佐 渡辺裕司 氏

生島義英ゼミナール

取組 7

長岡市摂田屋の魅力を高め、 観光客を増やし、地域活性化を図る

長岡市の衰退の勢いを止め、地域を活性化する活路のひとつとして考えられることは、観光客を増加させ交流人口を増大させ、観光振興を図ることが重要な方策である。すなわち「観光まちづくり」による長岡市の活性化を図ることと考える。

本ゼミナールの研究では「歴史ある醸造のまち」長岡市摂田屋地区に焦点を絞り、この地域における「観光まちづくり」をどのように進めれば地域の活性化が図れるのかを研究する。

【参加学生】 17名（3年生4名、4年生13名）

4年生 岩城優希、大港樹、岡田大輝、岡本猛、河田海、小池慎一郎、小海友希、高橋凜、長橋伊吹、中村瑞穂、樋口知恵、吉澤瞳、渡邊衣舞希

3年生 青山竜也、佐藤将貴、高橋那優、平山瑠伽



【アドバイザー】

長岡市 観光・交流部 観光企画課 課長補佐 小林隆 氏
機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会 事務局長 平沢政明 氏

令和3年度 学生による地域活性化プログラム

武本隆行ゼミナール

取組 8

主体性を礎にした、ネットに頼らない情報の収集と課題の探索

災害など有事の際にニーズの高まりをみせるラジオ媒体。コロナ禍という前例のない非常事態にある今だからこそ、ラジオの特性を十分に活かし、学生ならではの視点による長岡市の魅力や課題を発信していく。主体性を重視する意味から少人数でのチーム制をとり、「持ち込み企画」として番組案を練った上で、不採用もある前提でラジオ局の編成担当者にプレゼンテーションを実行。採用された暁には生放送枠にて放送を予定（11月頃）。本件では「FM ながおか」の全面協力により実施していく。



【参加学生】 12名（3年生12名）

3年生 池山有斗、石田優斗、杵渕恭佑、齋藤涼馬、佐藤健、土居稜宗、外山真衣、二國楓加、野村真子、早津マリア蓮、諸橋悠真、渡辺航平

【アドバイザー】

FM ながおか 長岡移動電話システム株式会社 常務取締役放送局長 佐野護 氏

坂井一貴ゼミナール

取組 9

データエビデンスに基づいた地域をより良くするための提言

～地場産業・観光を中心に～

昨年度から開始した以下の3つの活動を継続して実施していく。

1. 燕三条の刃物メーカーと長岡花火の絵柄をレーザー加工等した包丁の製造・販売
2. キャンプと移動サービス Maas をパッケージにした観光事業の取組み
3. ゼミナール活動のデジタルコンテンツによる情報発信に伴う大学の魅力発信

1, 2については、既存の財・サービスよりも高付加価値化を目指して企業の高収益化と地域活性化を狙い、3については伝え方の工夫で魅力を適切に伝え、該当サービス等の認知度向上とその後の顧客層拡大を狙うものであり、それを本学のゼミを事例として行う。

【参加学生】 16名（3年生2名、4年生14名）

4年生 安達侑、井口太一、池浦鼓太郎、大矢大介、黒柳恵理、齋藤翔太、白倉亮、菅原脩人、高野祐希、永井公貴、永井拓実、永島侑汰、中村理人、宮川友之介

3年生 佐藤大来、種部一真



【アドバイザー】

長岡商工会議所 営業サービスグループ 主幹 瀧澤学 氏

令和3年度 学生による地域活性化プログラム

喬 雪氷ゼミナール

取組 10

きもの文化村構想の試み ～十日町地域における新たな可能性～

グローバル化が進む世の中、個人の生活も世界情勢の変化に影響されます。真の国際化とは、畢竟自国の文化を大切に守り、受け継ぎ、世界に発信することから始まると考えます。本ゼミでは、「蚕、織物、絹生活、文化村構想」をキーワードとして、「みどり繭」を原材料として「絹生活研究所・Silk life lab」のブランド商品の開発・販売戦略を学習しながら、十日町「文化村構想」を実課題として取り組んでいきます。活動を通じて、経営戦略、資金調達、アトリエ企業誘致、予算管理、利益計画など財務会計と管理会計の知識を実践的に習得することを目指します。



【参加学生】 11名（3年生6名、4年生5名）

4年生 金子大輝、川上智輝、服部源太、吉澤凌哉、和田愛理沙
3年生 江口凜奈、小野加奈子、小野島陸、佐藤潤太、長谷川継介、村山翔

【アドバイザー】

株式会社きものブレイン 代表取締役社長 岡元松男 氏
富士工営株式会社・株式会社崇洋 代表取締役会長
マリンスポーツ はまかぜ 代表 池津忠 氏

高島幸成ゼミナール

取組 11

小学生のプログラミング教育を通じた地域活性化活動

本ゼミナールは小学生に対するプログラミング教育を通して、子供に対して小資本で高付加価値を生み出すことが可能な情報産業技術者を目指すきっかけ作りを行い、10年、20年後の長岡市内の平均所得向上の一助となることを目指す。

初年度にあたる本年は、プログラミングを学ぶ楽しさを伝え、学びのきっかけ作りとなる実際のプログラミング教室の開催によって、イベント運営のひな型を構築する。また、2020年度に始まった小学校におけるプログラミング教育の状況に対するヒアリングを予定している。



【参加学生】 12名（3年生12名）

3年生 五十嵐麗藍、岡田尚輝、小川優作、清水優太郎、高橋侑希、土田侑真、中村恵理、中村元哉、荻澤晴菜、松下竜大、若井奈津、渡部さくら

【アドバイザー】

長岡市 教育委員会 学校教育課 企画推進係 伊藤裕希 氏